

いわき市市制施行60周年記念特別表彰 受賞者一覧(6名)

※敬称略

【市外在住者(文化振興)】・2名

	か 氏	な 名	年齢	居住地	功績の概要
1	かみやま 神山	たかあき 敬章	75	埼玉県	昭和62年4月のいわき明星大学（現・医療創生大学）の開学以降、氏は同学の教鞭をとる傍ら、専門とする社会教育学・地域社会学などの豊富な知識と経験を活かし、市の各種委員のほか、市民の高度で専門的な学習ニーズに応えるいわきヒューマンカレッジ常任理事を務められ、本市の社会教育を推進し、地域社会に貢献する人材の育成に尽力されました。 とりわけ、平成12年4月に市社会教育委員に就任し、平成25年から令和5年までは同委員の会議の議長を務め、長きにわたり教育委員会への的確な御助言をいただきました。 また、平成24年9月から令和6年8月までは市生涯学習推進本部委員に就任し、特に、第七期市生涯学習推進計画（令和5年度～令和9年度）の策定においては、部会長も務めるなど中心的な役割を果たされました。 さらに、平成30年5月には福島県市町村社会教育委員連絡協議会長、令和6年6月からは同協議会顧問に就任し、本市のみならず福島県の社会教育の発展に貢献されています。 他にも、市男女共同参画推進アドバイザー、市地域福祉計画策定委員長、市社会福祉審議会児童福祉専門分科会会長、県学校教育審議会委員に就任されるなど、その識見を多方面で活かされ、市民の生涯学習の振興に寄与されております。
2	たぐち 故	やすお 田口 安男	享年 94	千葉県	氏は、本市平の出身であり、磐城高校を経て東京藝術大学で油絵を学ばれました。 同学専攻科時代には、絵具で汚れた研究室の壁の手痕から、自身の絵画の重要な要素となる「手」のモチーフを紡ぎだし、画壇の芥川賞とも言われ新人洋画家の登竜門とされた安井賞を受賞するなど注目を集めました。その後も「手」のモチーフを構成する表現を探求し、晩年まで画家として活躍しました。 また、イタリア留学で古典技法「黄金背景テンペラ」と出会い、日本で初めてその本格的な技法について紹介し、普及に努めたことでも知られています。 市立美術館建設（昭和59年竣工）の際には、市美術館建設基本構想委員会委員や市美術館建設審議会委員を、平成4年からは市美術品選定評価委員も務められるなど、今日に至る市民に親しまれる市立美術館の整備に寄与されました。 さらに、東京藝術大学美術学部油画科教授を退官後は、いわき市立美術館の館長を12年務められ、美術館運営に手腕を発揮されたほか、自らワークショップを企画し講師となるなど、美術の楽しさを広めました。 館長退任後は名誉館長に就任いただき、いわきの美術を語るに欠かせない御自身の作品や、ユニークな美術家・秋山泰計の作品を美術館に寄贈したほか、「黄金背景テンペラ」の技法をいわきで広めようと地元作家のアトリエで連続講座を御厚意で主催するなど、本市の美術振興に長きにわたりご尽力され、多大なる足跡を印されました。

【市外在住者(産業振興)】・1名

	か 氏	な 名	年齢	居住地	功績の概要
3	いのうえ 井上	なおみ 直美	75	東京都	氏は、東日本大震災から2年後の平成25年に、我が国のエネルギー産業の大転換を乗り越え、炭鉱から観光へと進化を遂げた象徴的な施設であるスパリゾートハワイアンズを運営する常磐興産株式会社の社長に就任されました。 平成29年5月には、観光まちづくりの司令塔である、いわき観光まちづくりビューロー会長に就任され、平成30年3月には、観光庁が推進する観光地域づくり法人（日本版DMO）に登録され、観光まちづくりを戦略的に進める体制を確立するなど、震災による風評被害やコロナ禍という逆境のなか、本市の観光復興と観光まちづくりに尽力されました。 また、常磐興産株式会社社長在職期間中の平成27年5月及び平成30年5月には、国際首脳会議「太平洋・島サミット」が2回続けてスパリゾートハワイアンズにおいて開催され、市内の子どもたちと一緒に、日本を含む太平洋諸国の首脳等のおもてなしを行うなど、東日本大震災から復旧・復興を遂げた本市の姿を世界に向けて発信することに貢献されました。 さらに、同施設開業当時から行われている「ポリネシアンショー」に、サモアの踊り等を取り入れていたこと、また、先のサミットを契機に本市とサモア独立国との交流が始まったことから、平成28年3月には在福島サモア独立国名誉領事に就任され、令和元年9月に日本で開催されたラグビーワールドカップでは、本市が同国のホストタウンとなるなど、相互の観光促進や交流事業の実施にも尽力されました。

【歴代市長及び歴代市議会議員】・3名

	か 氏	な 名	年齢	居住地	功績の概要
4	しみず 清水	としお 敏男	63	常磐	平成25年9月に第13代いわき市長に就任、以来2期8年にわたり、市勢伸展に尽力されました。在職期間中は、常に謙虚に、広く市民の声に耳を傾け、東日本大震災からの復興に向けて、「医・職・住」の分野に特に注力し、復興公営住宅の整備、公共インフラの早期復旧、JRいわき駅周辺の再開発、いわき市医療センターの開設など本市の復興と再生に大きく貢献されました。 さらには、平成27年と平成30年の2回にわたる「太平洋・島サミット」や「WBSC U-15 ベースボールワールドカップ2016 in いわき」の誘致・開催など、本市の存在を国内外にアピールし、国際交流を促進するとともに、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症など、危機事象への対応にあたっては、市民の生命・財産を守ることを最優先とし、寝食を惜みず、常に陣頭に立ち指揮に当たるなど、本市の復興・復旧及び市勢伸展に多大な功績を挙げられました。
5	すがなみ 菅波	たけし 健	69	平	平成16年10月から22年余にわたり、いわき市議会議員として市政の進展と地方自治の振興に尽力されております。 平成28年10月には、第16代いわき市議会議員に就任するなど、議会運営や地方自治の振興発展に貢献されました。
6	おおみね 大峯	ひでゆき 英之	65	平	平成20年10月から18年余にわたり、いわき市議会議員として市政の進展と地方自治の振興に尽力されております。 令和2年10月には、第17代いわき市議会議員に就任するなど、議会運営や地方自治の振興発展に貢献されました。